

第372回研究報告会（2024年11月7日）

「名前（ファーストネーム）の音韻的分析—イングランドとウェールズの名前を中心に—」

山本 晃司（天理大学国際学部准教授）

2024年11月7日（木）に研究所第372回研究報告会をおやさと研究所会議室で行った。名前に関する先行研究をもとに、イングランドとウェールズで子どもに名付けられる男女名を音節数、強勢位置、強勢位置での母音そして子音の種類の4点に焦点を当て、男女差があることを報告した。本研究発表で分析した母音に関して言えば、女性は前舌高母音が多用され、男性は前舌低母音が多用されるという違いが見られた。その一方で、本テーマの代表的な先行研究結果との共通点もあった。/i/（“eat”などで使われる母音）が男性名よりも女性名において多用される傾向が本発表でも見られる点である。男女間で特定の母音がなぜ好まれるのかについては、音象徴がその要因として1つ挙げられるが、それ以外の要因については現在も研究中であることを報告した。なお、本発表会ではデータの扱い方や分析方法などについて貴重なコメントをいただいた。

2024年度宗教研究会兼伝道研究会を開催（11月8日）

「明治神宮の国際交流とその課題」

伊藤 守康（明治神宮国際神道文化研究所）

明治神宮の禰宜^{ねぎ}で同神宮国際神道文化研究所の国際事業課長の伊藤守康氏が、標記タイトルについて発表した。まず自身のこれまでの海外での職務経験について述べた後、明治神宮の略史や概要について簡単に紹介。そして、明治神宮に参詣に来た海外からの要人や訪問者に対応する際に、神道の何をどのように伝えるかについては相手の文化背景などを考慮した工夫が必要であること、語学を含めてその対応が可能な人材を今後いかに育成していくのかなどが課題であることを、いくつかの実例を挙げながら説明した。明治神宮での国際交流においては、異文化の他者との関りが自己の研鑽にも繋がることを念頭におきつつ、対外発信に関する事業の理解度や認知度を神職間で高めていくべき、といったことが語られた。さらにネット情報社会において、外国人のみならず、日本人への訴求の大切さが挙げられた。また報告者がこれまで参加したさまざまな宗教間対話のイベントや行事を紹介し、その交流の意義についても言及した。引き続き行われた質疑応答では、日本の宗教が国際的な宗教間対話を行う際に留意すべき事柄などについて活発な意見交換が行われた。（尾上 記）

連載執筆のねらいと執筆者紹介

「日本占領期の香港—植民地研究の視点から」

山本 和行（天理大学国際学部教授）

戦前、1945年以前の「帝国」日本は、「内地」と呼ばれた地域以外に多くの「外地」を有していた。ここで言う日本の「外地」には、「植民地」、「租借地」、「委任統治領」、「軍事占領地」、「外国居留地」、「満州国」が含まれる。これら日本の「外地」をめぐる歴史研究は、おもに台湾、朝鮮半島、樺太、満州、南洋群島をフィールドとして行われ、日本における植民地研究、および「帝国」研究の基盤を築いてきた。

本連載では、植民地研究の視点から、相対的に研究蓄積のうすい日本占領期の香港について見ていきたい。香港は上述した「外地」の区分によれば「軍事占領地」にあたる。日本軍による香港占領は1941年12月25日に始まり、1945年8月15日の日本降伏・武装解除によって終わる。このことから、香港では占領開始日を「Black Christmas」、日本占領期を「三年零八個月（3年8カ月）」と象徴的に呼ぶことで、歴史記憶のうえで「暗黒期」として位置づけられている。そのように捉えられる日本占領期の香港について、植民地研究の知見や方法を踏まえながら、あらためてその歴史的な位置づけについて考えたい。

山本和行（やまもと かずゆき）

専門は植民地教育史、博士（教育学）、単著に『自由・平等・植民地性—台湾における植民地教育制度の形成』（2015年）。

2024年度公開教学講座のご案内

— 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ（10） —

2024年度の公開教学講座は、以下の日程でオンライン配信しています。

第1回 6月 井上昭洋所長 172話「前生のさんげ」

第2回 7月 澤井真研究員 114話「よう苦労して来た」

第3回 9月 岡田正彦研究員 135話「皆丸い心で」

第4回 10月 八木三郎研究員 36話「定めた心」

第5回 11月 森洋明研究員 85話「子供には重荷」

第6回 1月 中西光一研究員 144話「天に届く理」

グローバル天理
第26巻 第1号（通巻301号）

2025年（令和7年）1月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋
編集発行 天理大学 おやさと研究所
〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050
TEL 0743-63-9080
FAX 0743-63-7255
URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>
E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所（HP）



印刷 天理時報社

Printed in Japan